

子育て応援フェスタ



取組テーマ2-②私発による協働

R6,R7
協働チャレンジ事業

協働のきっかけ

くさつらウンドテーブルをきっかけに始まり、コミュニティ事業団の伴奏支援を経て実施された。

令和5年度は、こどもまんなか助成金を活用して事業を実施した。令和6年度、令和7年度はまちづくり協働課の協働チャレンジ事業で提案され、採択された。

協働主体・役割

まちのコミュニティハブ ツナグ
合同会社 コミニタス
子育て相談センター

→第3回「子育て応援フェスタ」の企画・運営

コミュニティ事業団
まちづくり協働課

→協働団体と市との仲介役

事業概要

市と民間が一体となり、こどもの育ちと子育て家庭を応援し、【日本一子育てしやすいまち】を目指して開催した。子育て親子の交流や乳幼児から小学生までが楽しめるイベントなどを企画した。また、地域の子育てを応援したい市民活動団体・学生団体や地域貢献を行う企業(事業者)などにも出展してもらうことで、子育て層と地域の事業所、相談機関とのこれまでにない新たな出会い・つながりづくりをコーディネートし、多世代交流や共同事業創発のきっかけとする。

取組内容と効果

キラリエ草津にて、令和5年度に初めて開催して以降3回目となり、さらにパワーアップして家族で楽しめるイベントや子育て中の保護者の相談会を行った。官民協働に加え、立命館大学の団体、キラリエサポーターやワークショップを得意とする事業者などに参画いただき、交流機能を高め新たなつながりづくりの場となった。

開催日時: 令和8年2月21日(土) 開催場所: キラリエ草津 出展数: 35企画 来場者数: 512人

内容: スタンプラリー、あい・ふらっとサロン、謎解きラリー ほか

今後の展望

地域の子育てを応援したい市民活動団体、学生団体、企業と参加者が楽しみながら様々な分野のイベントを通じた顔の見える関係づくりを継続し、相互に子育て家庭や地域課題を共有することで、課題解決に向けた効果が期待できる。



FEATURE

取組テーマ2-③福祉×まちづくり

コミュニティくさつ 2025年7月号

朝ごはん 食べた？ ぷらっとほーむ おむすび

武内昭彦さん(42歳)



朝の子ども食堂

老上学区の湖州平は約500戸。約50年前前にできた住宅地とあって、最近では空き家や留守がちな家もちらほら。

朝6時45分、老上中学校の隣にある集会所に「こども食堂おむすび」の看板が掲げられました。布製の手づくり看板からはほのぼのと温かさが伝わってきます。

そう、ここは「おはよう」から始まる朝のこども食堂。最近では市内外のあちらこちらで「こども食堂」の活動が展開されていますが、「コ」は朝ごはんと一緒に食べる、県内でも珍しいこども食堂です。

広間に並べられた長机に炊飯器が置かれました。一升炊きの中には、炊き立てホカホカごはん

▲イメージ



んが湯気を立てます。男性がおむすびを作り出しました。具のない素朴な塩おむすびをぎこちない手つきで一つひとつ丁寧に握るのは武内昭彦さん、42歳。2年前に湖州平に引っ越してきました。隣で賑やかに話しかけている、いや手伝ってくれているのが武内さんの息子さん、小学1年生です。

おむすび食べれば

時計の針が7時を過ぎたころ、「おはよう」とリュックを背負った小学生がやってきました。3年生の女の子です。

「〇ちゃん、3年生の算数って今なにやってるん?」「月曜イヤや、6時間目まであるもん」「リンゴ病って3年生も流行ってるん?」「隣のクラスめっちゃ休んでる」

子どもと大人、子どもと子どもの会話が進みます。机の上にはお盆に載ったおむすび。うん、美味しそう。一つ一つ食べ始めると、会話はさらに弾み、声も大きくなりました。

朝ごはんパワー注入です!

ひと通り食べ終わると、登校時間まで各々が気ままに過ごします。武内さんやボランティア

さん相手におしゃべりする子、宿題や予習をする子、腹ごなしがてらに(?)走り回ってる子、ゲームする子……。

7時45分。さあ、そろそろ登校の時間。武内さんに付き添われ学校へ。今日も元気にいってらっしゃい!

この間、わずか1時間弱。学校へと向かうみんなの元気な笑顔が、とても意味深い時間だったことがわかります。

朝の小1の壁

実は武内さんは18年間、小学校の教師でした。先生時代は朝食を抜いてくる子や独りで食事をしている子に、なんとなく気づくことがあったのだとか。忘れ物が目立ったり、服装が気になったり。「親御さんの目や手が行き届かないのかも…」と感じるときもありました。

やがて武内さん自身の子が小学校に入学するという前年のこと。入学を機に仕事と子育ての両立が難しくなる「小1の壁」についてテレビで特集されていた。特に、親の出勤時間と子どもの登校時間との間にギャップが生じる「朝の小1の壁」に衝撃を受けました。



「あと5分早く学校を開けてほしい。これでは会社に遅刻してしまう」とインタビューで話す親。実は教師時代に保護者から言われたことのあった言葉でした。

教師だった当時は「5分くらい我慢してよ」というのが正直な感想だったのだとか。でも、実際に小学生の親になってみると聞こえ方がまったく逆。学校側の理由と親の言い分、どちらもわかる自分がいました。

そして、ふと気づきました。「これって、うちのことやん!」。さっそく近所の小学生たちが

武内昭彦さん

「親の出勤後も子どもが朝食をとれ、登校までの時間を過ごせる家ではない居場所がまちの中に必要やないか。わが家の他

ないならつくる

集合する場所や時間などの様子を調べてみました。やっぱり自分や妻の出勤時間とは合いません。そう、壁があったのです。



にも必要とする家庭があるはず。今ないなら、つくったらえやん」

思い立ったら即行動の人、武内さんは迅速でした。安全安心なまちの居場所といえば集会所と考へ、町内会長に相談です。

「町内会の会員は集会所を使用できるし、月1回程度なら、町内会長がカギを開けてあげると言ってくれました。炊飯器などの荷物があるなら会長宅の車庫に駐車しても良いとまで言ってくれました。願ってもない協力に、会長や町内会には感謝しがあります」と武内さん。

なるほど。

でもなぜ、おむすび？

「できることをできる範囲でやろうと思って。塩むすびなら子どもでも作れるし、アレルギーを心配することなく、経費だつて抑えられるかなって

(笑)。味付けにはフードバンクで提供いただいたふりかけなどを置いてます」

色々な大人たちと

活動のスタートを知ってもらうため、SNSだけでなくチラシを作つて登校の集合場所に集まる子どもたちに配って回つたのだとか。

「SNSを見て80代の女性が他学区から参加してくれました。ずっとこども食堂に関心をもつてたそうです。子どもたちとおしゃべりしたりお手玉で遊んでくれます。総合学習で女子高生が8人も手伝いに来てくれたこともあり。賑やかでしたね(笑)」。

食堂を開くたびにこんな新しいつながりが生まれるのがあるがたいです。ここに子どもたちが来て来なくても、自由に来られる空間、待っている人が

いる場所がそこにあるということが大切なんだと思つてます。子どもたちにはここで、色々な大人や他の子と触れ合つて欲しいですね」

子どもだけでなく、学生さんや若者、高齢者まで、孤食や忙しくて朝食の用意が難しい家庭、居場所を求めている人など、誰もが気軽に来られてホッと息ついたり、つながりができる場所になつて欲しいと、名前も「ぶらっとほーむ おむすび」になつたのだとか。

おむすび。なんとも良い響きです。語源には人と人の良縁を結ぶ縁起の良いもの「お結び」からきているという説もあるのだとか(諸説あり)。

なるほど。人と人、人とまち、子どもと大人……。縁を結んでくれる朝ごはんが、ここ湖州平にありました。

さあ、みんなで朝ごはんにしましょう。いただきます。

●ぶらっとほーむ おむすび

Instagram

- 毎月第2月曜日
- 6:45~8:00
- 湖州平集会所



@SYOJUN813

ボランティア募集中!!



活動の様子は、えふえむ草津
草津市コミュニティ事業団提供
「くさ☆コミュニTea Time!」

オンデマンド放送でもお聞きいただけます。
第65回(2025年2月)放送



市内の協働のまちづくり取組事例

おいにしhotけん（公式HPより抜粋）



おいにしhotけん

老上西学区まちづくり協議会の福祉部会が中心になり、地域の方々のお困り事を支援する「おいにしhotけん」の活動が始まりました。

老上西学区まちづくり協議会の福祉部会が中心となり、地域の方々の お困り事を支援する「おいにしhotけん」の活動が始まりました。

「おいにしhotけん」とは
「おいにしhotけん」は、草津市老上西学区でスタートした地域福祉活動です。
高齢者や子育て世帯など、日常生活の中でちょっとした支援を必要とする方と、手助けをした
い地域の住民を結ぶ仕組みとして立ち上がりました。
「誰かの困りごとを、地域で支え合う」そんな温かなつながりを目指しています。

会員制度について

活動は会員制度によって運営されています。3つの会員タイプがあります。
よろしく会員：支援を依頼する側で、生活のちょっとした困りごとをお願いできます。

支援内容の例

- 「おいにしhotけん」では以下のような支援を受けることができます
- ・庭の草引きや簡単な手入れ
 - ・ゴミ出しや分別のサポート
 - ・部屋やお風呂、トイレなどの掃除
 - ・買い物代行や日用品の購入
 - ・スマホや家電の使い方サポート
 - ・話し相手や見守り活動
 - ・軽い調理補助など

※送迎や介護業務、資格が必要な作業、危険作業は対象外です。

利用料金と条件

基本料金は60分まで500円、延長30分ごとに300円です。
利用は1回2時間まで、作業内容に応じて2人1組での対応になります。
お家の中の作業については、ご本人の立ち会いが必要です。

登録とお問い合わせ

正会員の年会費は500円（年度ごと）で、「よろしく会員」と「任せて会員」の両方に登録できます。
児童・学生は準会員として無料で登録できます（保護者同意が必要）。
賛助会員は1口1,000円から、法人は3口以上が目安です。
お問い合わせは「老上西まちづくりセンター」まで。
受付時間は火曜・金曜の9:00～12:00、電話は090-6664-7836です。
LINE公式アカウントからの相談も受け付けています。

取組テーマ3ー①地域における活動の持続可能な運営

経過

これまで無償ボランティアで地域住民の困りごとを支援してこられたが、無償であるが故の支援の求めづらさを解消するために、有償ボランティアのシステムを取り入れ、令和7年度より「おいにしhotけん」として運用されている。

取組主体

老上西学区まちづくり協議会
学区社会福祉協議会
民生委員児童委員協議会
赤十字奉仕団など社会福祉団体
地域住民

実績

令和7年度（初年度）
17件実施（草ひき、家の掃除、服の修繕など）
その他、まちづくりセンターの日常清掃の受託

会員制度

よろしく会員
…援助を求めている方が対象 11名

任せて会員
…援助できる方が対象 20名

賛助会員
…法人団体資金援助者、学区外に移住する会員の家族等が対象 2件